



トキの本州での野生復帰について



環境省自然環境局野生生物課
希少種保全推進室



トキ保護増殖事業の経緯



- トキは1993年に種の保存法の国内希少野生動植物に指定。同年保護増殖事業計画を策定。
- 国内のトキの野生絶滅ののち日本産トキの絶滅を経て、人工繁殖個体の放鳥により佐渡島での野生復帰が進む。



トキ *Nipponia nippon*

【指定】 特別天然記念物 1952年
国内希少野生動植物種 1993年

【レッドリスト】 環境省 絶滅危惧 I B類(第5次)
IUCN 危機(EN)



図1. トキの過去の分布

- ・江戸時代は全国各地に分布、その後明治時代に乱獲等により激減
- ・1970年に能登半島で本州最後の1羽を捕獲
- ・1981年に佐渡島で最後の5羽を全て捕獲→野生絶滅
- ・1999年に中国から当時の天皇陛下に贈呈されたペア（友友・洋洋）による繁殖が成功。
- ・2003年に日本産の最後のトキ「キン」が死亡
- ・2008年に新潟県佐渡島で、飼育繁殖したトキの野生復帰を開始。
- ・2012年に野生下で初となるヒナの巣立ちを確認
- ・2026年環境省レッドリストのカテゴリー変更（IA類→IB類）
- ・2026年から本州での放鳥を開始



1999年に贈呈された洋洋（ヤンヤン）と友友（ヨウヨウ）。
2018年までに、さらに5羽が中国から提供される。

野生下の推定個体数及び繁殖率の推移

- 佐渡島でのこれまでの野生復帰の取組の結果、野生下のトキの個体数は増加。近年は、おおむね500羽程度で推移。国内ではほぼ全個体が佐渡島内に生息している。
- 近年佐渡島では野外での繁殖率が低下（図3）。繁殖期中の個体間の干渉増加等によるものと推測。また、放鳥したトキの初期生存率の低下も確認されている。
- 一方で、保護増殖事業計画に基づき策定された「トキ野生復帰ロードマップ」には、最終目標として「国内での成熟個体1000羽」の生息を目指すことを記載。
→島内では分散を図りつつ、本州での個体群形成を促す必要あり。

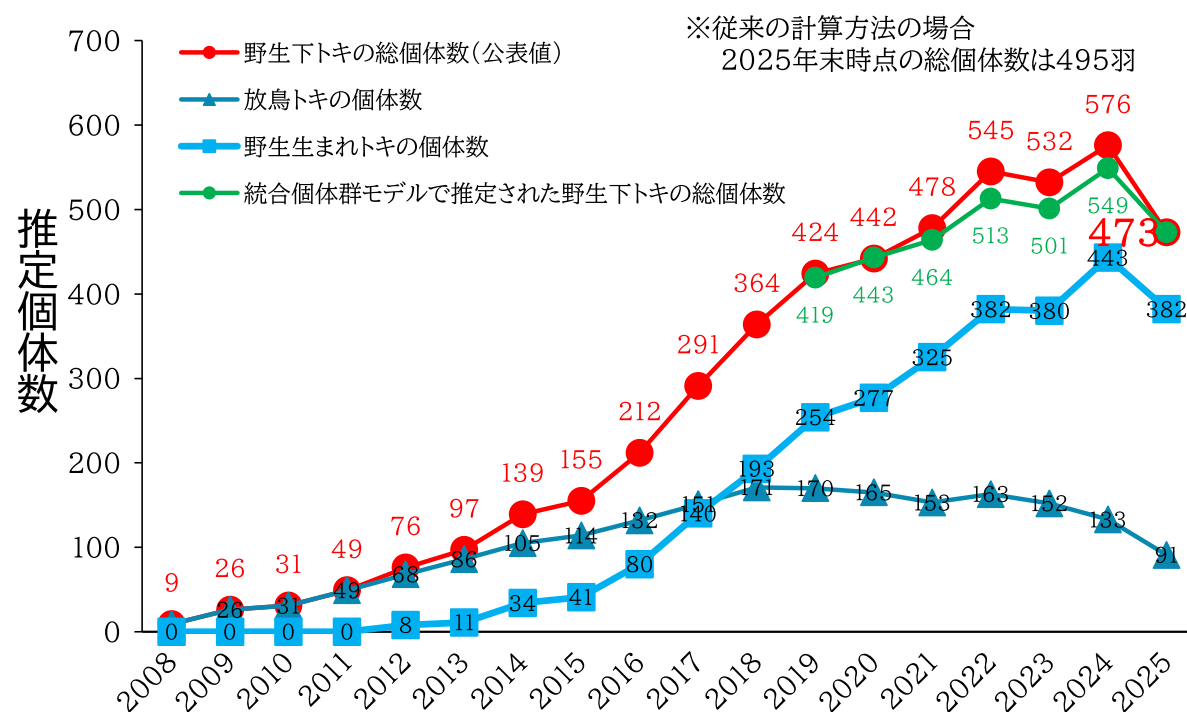


図2. 野生下でのトキ個体数の推移（佐渡島）

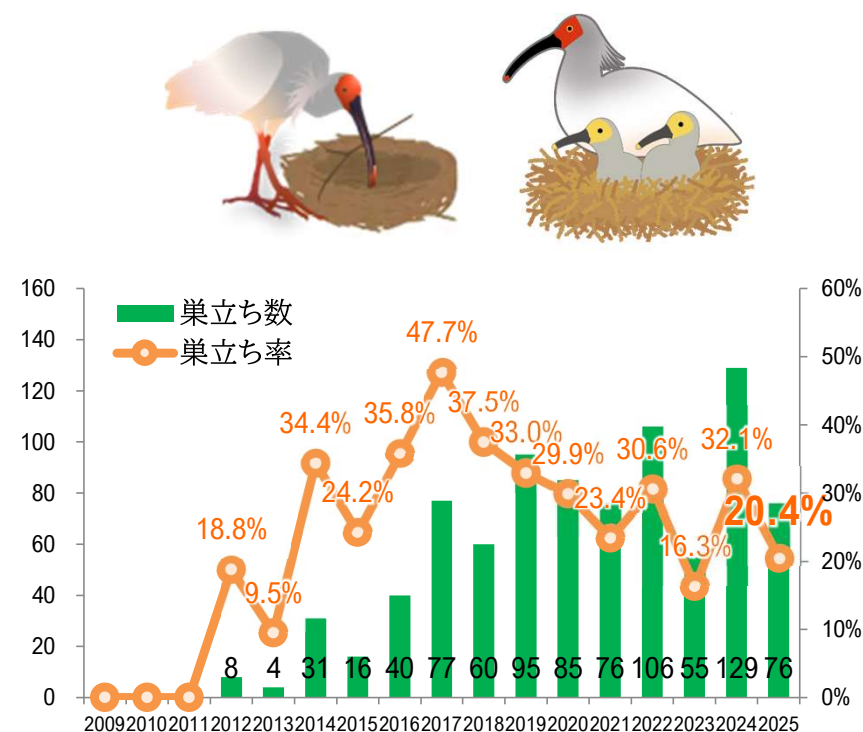


図3. 巣立ち数及び巣立ち率の推移（佐渡島）

これまでのトキの拡散状況と本州での野生復帰に向けた取組

- 本州での飛来分布範囲は、佐渡を中心に300km以内。
- 2008～2025年までに本州への飛来が確認された個体は計37羽だが、性別が判明した(足環がある)個体23羽中、メスが21羽と性比に大きな偏り。

→トキが自然に分散して本州等で定着・繁殖するのは困難、またはかなり時間を要すると想定。



図4. 本州へのトキの飛来状況 (2008-2025)

○ トキと共生する里地づくり取組地域

- ・ 環境省では、令和4年に本州でのトキ受入れに意欲がある取組地域を公募し、5地域を選定。
- ・ 石川県・能登地域9市町、及び島根県出雲市は「トキの野生復帰を目指す里地」に選定。

○ 各地でトキの野生復帰のための自然環境整備・社会環境整備の取組推進

- ・ トキの餌場環境整備
- ・ 化学肥料・農薬を慣行より低減した水稻栽培面積の拡大や認証米制度の確立
- ・ 地域住民への積極的な普及啓発（観察マナーの啓発や子どもに対する教育。イベントやシンポジウムを通じた発信等）

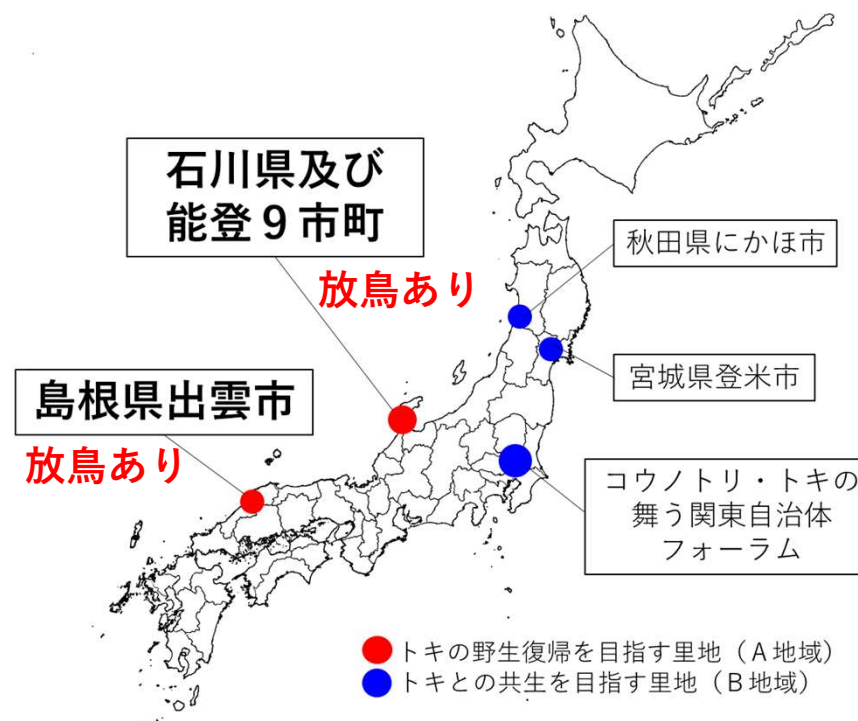


図5. トキと共生する里地づくり取組地域 位置図

石川県能登地域における本州で初となる放鳥の実施

「能登地域におけるトキ放鳥」の決定

- ・有識者会議（トキ野生復帰検討会）において、石川県及び能登9市町における野生復帰の取組が評価されるとともに、石川県における今後の放鳥計画及びモニタリング計画が了承された。
- ・これを受け、環境省は令和8年度上半期中を目処に能登での放鳥を実施することを決定。

放鳥場所等の決定

- ・放鳥場所は、能登地域トキ放鳥受入推進協議会により羽咋（はくい）市南潟地区に決定。
- ・放鳥式典を能登地域トキ放鳥受入推進協議会と環境省が共同で開催。

能登地域でのトキの放鳥

- ・放鳥候補個体は約3カ月間、佐渡トキ保護センターにて順化訓練を実施（飛翔能力や採餌技術等の取得）。
- ・5月30日に能登地域にトキを移送。
羽咋市南潟付近において、5月31日にハードリリース方式で8羽、
6月14日に仮設ケージからのソフトリリース方式により10羽の放鳥を実施。
- ・5月31日に、放鳥記念式典及び放鳥式を実施。



図6. ハードリリースの様子



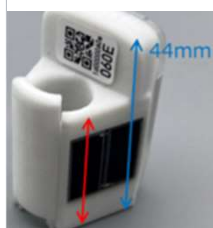
図7. 仮設ケージからのソフトリリースの様子

放鳥後のトキの生息情報の収集方法及び現在の分布

本州における生息状況把握

- ①【環境省実施】2年目までを目途に放鳥全個体に追跡機器を装着。遠隔で分布と大まかな移動状況を把握。

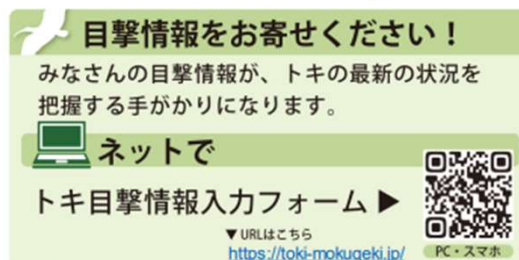
足環型追跡機器



- ・週に一度、環境省HPにて、市町村単位で生息場所を公表中。
- ・今後は行動軌跡等を解析予定

- ②【取組自治体の実施】上記情報を基に、取組自治体が地域で構築した「モニタリングチーム」により、詳細な情報（餌場環境、行動、繁殖状況等）を把握。

- ③【住民等の協力を得て実施】一般市民、バードウォッチャー等からの目撃情報を収集



これらの情報により、本州における生息状況を把握するとともに、今後の放鳥計画や生息環境整備に活かしていく。

放鳥個体の分布状況

- ・8月上旬時点で、放鳥した**18羽全ての個体が生存**していると推測。

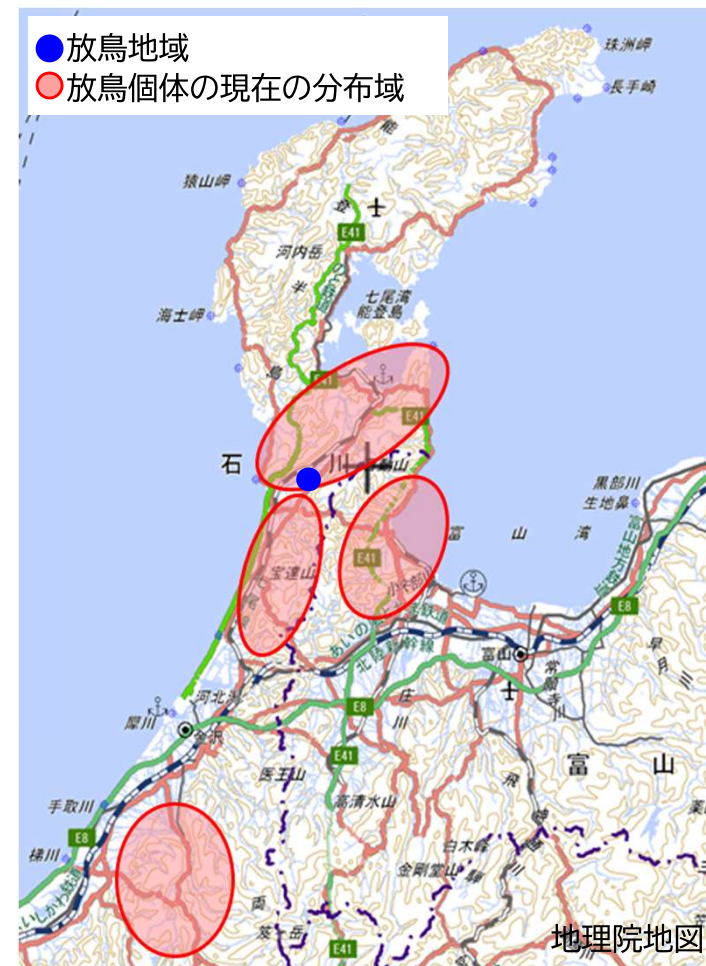


図8. 能登地域周辺におけるトキの分布（8／4時点）

今後の予定



今後の放鳥予定

令和8年秋(10月)
石川県中能登町春木地区(10羽予定)

- 初回放鳥地
- 秋放鳥予定地



令和9年初夏(5~6月頃)
島根県出雲市稗原(ひえばら)地区

- 放鳥予定地



図9. 今後のトキの放鳥予定地域

トキ保護増殖事業の目標

「トキ野生復帰ロードマップ2030」

○短期的な目標(2030年度まで)

- ・ 佐渡島においては、500羽程度生息数を維持 等
- ・ 本州等では放鳥したトキが2つ以上の地域で合わせて50羽程度生息し、そのうち1つ以上の地域で繁殖が確認されている

○最終的な目標

- ・ 国内での野生下での成熟個体1000羽以上
- ・ 国内で複数の地域個体群の確立
- ・ 地域個体群間の際の遺伝的な交流



1998年レッドリスト

野生絶滅

2019年レッドリスト

絶滅危惧
IA類 (CR)

2026年公表
第5次レッドリスト

絶滅危惧
IB類 (EN)

将来的には「普通種」へ

同時に

トキが生息できる環境を維持、拡大していくことで、

○生物多様性・自然環境の保全

○里地里山の地域振興

に貢献していく

あなたのまちに
トキがやってきたら

{ トキの観察方法・けがをしたトキを見つけたら }

トキと人が共生するため、
私たちにできること。



トキは里地里山のシンボル種